

地域共生ステーションづくりワークショップ

次のステーション部会(第6回) 結果報告

1 概要

- (1) 日時 平成25年5月19日(日) 14時00分から17時00分まで
- (2) 場所 蟹原集会所
- (3) 参加者
 - ・ワークショップ参加登録者 9名
 - ・参加者 6名
 - ・事務局 3名
- (4) 配布資料 「地域を探ろう!」【市が洞小学校区】

2 内容

(1) まち歩き ～地域を探ろう!～

市が洞小学校区にある「蟹原集会所」を拠点に、「まち歩き」をしながら地域の状況を探りました。

「蟹原集会所」を出発し、「日東工業→井堀熊田集会所→長久手南部浄化センター→市が洞小学校→長湫南部1号公園→長湫南部5号公園」の順に校区内を「まち歩き」し、「丁子田」バス停にてNバス南部線に乗車して「蟹原集会所」に戻りました。

(2) まち歩きの振り返り

「まち歩き」後は、振り返りを行いながら、地域共生ステーションの活用イメージや地域での取り組みについて話し合いました。

(参加者)

長湫南部1号公園は敷地が広く森に接している自然豊かな公園だと思った。公園の一角に地域共生ステーションを立ち上げると良いのではないか。隣接する山を活用して木の上にツリーハウスをつくるなど、地域共生ステーションでできる取り組みを考えてはどうかと思う。

(参加者)

東名高速道路を境に、古くからの住宅が多い北側と新しく開発された南側で

大きく印象が異なる地域だと感じた。同じ小学校区内でも場所によって地域性が異なるので、それぞれの地域をどのようにつなげていくかを考えていく必要があると思う。

（参加者）

新しく開発された地域では、ほとんどの家に防犯システムが備わっていた。また、本日は天候が良くないということもあるが公園が閑散としていたため、住民同士の横のつながりがあるのかが気になる。

（参加者）

住民同士の横のつながりが弱いと、子の虐待や孤独死、犯罪等の問題が生じると思う。今の若い世代は、住民同士でつながることにわずらわしさを覚えてしまう人が多いと思う。まち歩きをしてみて、新しく移り住んできた若い世帯が多く、地域住民同士でつながることを求めているのではないかという印象を持った。

（参加者）

地域の印象は実際に住んでいる人と住んでいない人の間で感じ方に大きなギャップがあると思う。

この地域は地元の自治会の人たちが、地域のつながりをつくるためにどうしたらいいのかよく考えている地域だと思う。

（参加者）

この校区では犯罪の増加も問題になっている。犯罪が起こらないまちにするために、地域に数台の防犯カメラを設置したいと思っている。防犯カメラの設置によって犯罪が激減した例もある。防犯カメラを設置することは、地域の人の目があると知らしめ、犯罪の抑止力につながると思う。

（参加者）

手助けが必要な主な存在は「高齢者と子ども」である。「高齢者と子ども」にいかにか手を差し伸べるかをまちづくりを行う上でしっかりと考える必要があると思う。特に一人暮らしのお年寄りの孤独死は深刻な問題である。孤独死をなくすために地域で見守りをしていきたい。「声をかける」ことしかできないかもしれないが、孤独死をなくすために必要なことを少しずつでも実践していきたい。

(参加者)

一人暮らしのお年寄は地域交流の機会が少なく、それが孤独死につながっている。地域共生ステーションを一人暮らしのお年寄も気軽に立ち寄れる地域交流の場にしていきたい。

(参加者)

地域で孤独死があることはとてもつらい。若い世代の人たちにとって、お年寄りがいきいきと元気に過ごしている姿はモデルであり、希望。お年寄りの方たちが元気らせる地域づくりをしていきたい。

地域共生ステーションを、若い世代の人たちとお年寄りが関わり合い、互いにいきいきとした時間を過ごすことができる場所にしていきたいと思う。

(参加者)

地域共生ステーションが一人暮らしのお年寄りのように地域で何か問題を抱えた人の受け皿になるのはすばらしいことだと思う。ただ、地域共生ステーションの基本コンセプトが「ふらっと小屋^{こやあ} ～一人ひとりが主人公～」であることを意識しておく必要はある。地域共生ステーションは、健康で特に問題を抱えていないような人たちも気軽に立ち寄り、そこでお茶を飲みながら地域の情報交換ができる場にしていくことが大切だと思う。

(参加者)

地域共生ステーションは公営の喫茶店のような場所というイメージを持っている。地域共生ステーションが、例えば地域の主婦が日中にふらっと立ち寄って話ができるような場所になればいいと思う。

(参加者)

まずは地域共生ステーションに問題を抱えていない元気な人たちに集ってもらい、問題を抱えている人を助けることができる仕組みつくるためにはどうしたらいいかを話し合っていきたい。

(参加者)

市が洞小学校区は集会所が少ないため、地域の人が集まって話し合いをする場所を確保することがとても困難である。長湫南部土地区画整理組合の事務所を利用することができるが、利用者が集中すると利用できないことも多い。

この事務所を活用して、地域共生ステーションを地域の自治会や子ども会、

シニアクラブなど重層的に利用できる場にしていきたい。

(参加者)

これからの地域づくりは自治会や自治会連合会だけが動くのではなく、日東工業のような地域の企業や民生委員、PTA、愛知淑徳大学のCCCなど、様々な分野の人たちで一つの組織を作り、それぞれの専門分野の意見を取り入れながら話を進めていくのが良いのではないかと考えている。

※ CCCは学生の実践力を育む「教育」と学生の自主活動を支える「支援」に取り組む教育組織。

(参加者)

新しく移り住んできた人と長く住んでいる人とが混在している地域という意味でこの校区は「長久手市の縮図」と言えるのではないか。この新旧の住民の間にどうしたらつながりが生まれるかを考え、これまで地元でお祭りや校区運動会を開催してきた。

今後は地域の子供たちに何を残せるのか考え、PTAとも連携していきたいと考えている。

とにかく地域できることから取り組んでいくことが大切だと思う。

(参加者)

地域の様々な取組にもっと積極的に参加していてもいいと思う。

3 今後について

昨年11月に始まった「次のステーション部会」では、各小学校区で「まち歩き」や地域住民の人たちの話を聞きながら、地域の状況を探り、地域共生ステーションの取組として何が必要かを考えてきました。この部会も今回で一区切りとなります。

今後は、「次のステーション部会」で話し合ってきたことをもとに、各小学校区の地域独自の取組を進めていきたいと考えています。

■次回の開催日程

日時：平成25年7月13日(土) 14:00～

場所：市役所西庁舎3階公民館 学習室1

内容：今後の進め方について(予定)

ワークショップのまとめ [H25.5.19]



参加者コメント

様々な問題や目的の中で、優先順位をつけすぎないで、全部実践してほしいです。
どれも生活の中では大事なことだと思います。

「子育て」「防犯」「孤独死」どれも根っこは一緒。

丁子田の高齢化が進んでいる。

車庫の上に家を建てている人が多い。身体が不自由になったらどのように出入りするの。家の中のバリアフリー化は進んでいるが、家の前のバリアフリーについても考える必要があるのでは。

つながり ~
「めんどくさい」「おせっかい」
「あたたかい」「安心」

地域共生ステーションの位置づけは校区分権。
高齢者、児童、自治会、子ども会、シニアクラブなど、重層的に利用する施設。

地域共生ステーションをコミュニティ、交流の場として常設する。
現状、自治会や子ども会は、集会の場所の確保に困っている。

長久手南部浄化センターを住民に開放しよう。

～まち歩きや振り返りの中で感じたこと、思いついたことなど“メモ”に残していただきました

【当日の様子】

